

茨城 全研ニュース #8

認知症の人と家族への援助をすすめる
第35回全国研究集会 in 茨城

公益社団法人 認知症の人と家族の会 茨城県支部
事務局 / 〒300-1292 茨城県牛久市中央3丁目15-1
(牛久市保健センター隣)
TEL/FAX 029-828-8089
E-mail Alz2010ibaraki@yahoo.co.jp

いよいよ来月は茨城県つくば市で全国研究集会です。

今年の台風シーズンも水害、停電など、各地に大きな被害をもたらしました。千葉県ほどではありませんでしたが、茨城県の県南地域も停電や交通マヒなどに見舞われました。今年の全研の開催地となるつくば市も、停電や電車の運休・遅延が続きました。猛暑日や熱帯夜における停電は正に殺人的で、医療的ケアを受けている方々や高齢者、特に逃げ出すことの難しい認知症や障害をもつ方々の、停電下での熱中症対策という新たな課題が浮かび上がって来ました。

いよいよ全研も翌月に迫り、個々の内容の詰めも進んでいます。既に基調講演の打ち合わせも行い、26日にはシンポジストが集まり、最終打ち合わせに臨みます。そこで今回は、全研で基調講演をして頂く、東京医科歯科大学特任教授でメモリークリニック御茶ノ水の院長である朝田隆先生に、認知症医療の立場から見た「つなぐ」についてお聞きしました。

Q. 医師と患者さんやご家族との間はまだまだ隔たりが有りそうですが？

在宅医とは違って、外来診療では月に3分くらいしか様子を診られないので、なかなか日



ワカサギ漁で有名な霞ヶ浦の帆引き船、今では観光が中心です。

常生活やその変化を把握するのが難しいのが実態です。医者はよく、「対応の仕方だよ」と言います。頭では分かっているけど、ずっとでは参ってしまうという事も分かってはいます。やはり介護者のケア、負担軽減は大切です。施設等の整備も必須ですが、財源難、人手不足が問題です。人材をシフトするには給与も勿論ですが、介護職員に対するリスペクトが何より大事です。

Q. では、コメディカルも含め医療者間の協力関係はどのようなのでしょうか？

在宅医療を中心に進みつつありますが、まだまだこれからでしょう。例えば、認知症で失語症を伴っている方が多くいますが、介護保険で ST（言語聴覚士）の治療を受けられる事を知らない人が、医師を含め結構多いです。東京都では BPSD の対処に関して、ビッグデータに基づく AI 化を考えています。多くの人が様々な取り組みをしているので、統合する事で、各ケースに応じた良いソリューションや指針が得られるようになるかも知れません。

Q. 医療者と研究者との繋がりはどうですか？

正直言ってそれ程近くはないです。基礎研究の人達は一見関係無さそうな様々な因子との関係を調べていて、意外と日常生活の細かな要因が影響している事が多いようです。しかし、掛り付け医などは、専門分野も違ったりすれば、なかなか最先端の基礎分野の情報をアップデートしきれないと思います。

Q. TV 等を通して、認知症も随分知られるようになって来ました。先生の貢献が大きい訳ですが（笑）。周辺住民の理解は進んで来ているのでしょうか？

まだまだ万人に知れ渡るといふ迄には至っていないでしょ。実感がなかなか持てず、他人事から自分事への転換が難しい。世間ではまだ 6 人中 5 人はよく分かっていないと言います。落語とか漫画とか更に入り易くする必要があると感じます。しかし、行政の働きで地域ぐるみの協力体制は出来つつあります。

Q. 逆に言えば、呼びかけが無ければ関わりたくない？

結構お年の方は認知症の話を避けがちです。また、認知症予防の話題になると、「うちの父さんは色々実践したけどなってしまった。何が悪かったのか」という風に考えてしまう。そういう事ではないのですが…。アミロイドβを沈着させないなどといった一次予防はまだまだ難しいですが、二次予防（早期発見・早期対応）ならある程度可能です。天寿を迎える頃（平均寿命）に少しボケて来たかなくらいなら大成功という考え方であれば、出来そうだし、共生も可能ではないでしょうか。

Q. 認知症と上手く付き合っていく時代という事ですかね…。

